

不安なのは自分の老後？

それとも家族の老後？

ここ数年の中国において「老後を如何に過ごすか」という議題は、「全国人民代表大会」（全人代）でも常に重要項目となつていきます。

國務院の李克強総理は今年の全人代で、「高齢者の生活を幸せなものに出来れば、後に続く世代も未来に期待を抱ける」と述べました。

「自分の老後を心配する」と答えた割合が最も高かったのは「90後（90年代以降生まれ）」で80・6%。「親の老後を心配する」と答えた人の割合が最も高かったのは、「85後（85〜89年生まれ）」の87・0%でした。

これを受けて中国青年新聞社の社会調査センターとアンケート調査サイロ間巻網は全人代開催期間中に18歳から35歳の1876人の若者を対象にアンケート調査を実施、回答者の89・3%が「老後」について関心を抱いており、回答者の78・8

ぐに対応できない」や、「高齢者を介護する経済的負担を今後抱えられるか心配」などが挙げられました。

中国では古来より「百善孝為先」（百の善行の第一は親孝行から）という教えがあるほ

ど、「親孝行」が美德とされてきましたが、近年では兄弟姉妹の数が少ない故に、親の面倒を分担できない、いわゆる「421家庭」（1夫婦に対し子供1人と親4人）が増加しています。

また高齢社会では労働人口が減る一方、定年退職者が増加しています。職者が増加しています。現役世代はこのリタイアした高齢者の老後資金を支えなくてははいけないというプレッシャーも大きくなります。

中国の高齢者マーケット

～介護・不動産事業の行方～



ゲストハウス総経理
稲田 義人

著者プロフィール
ゲストハウス総経理。中国事業に携わって7年、介護職員養成学校の立ち上げや日本式介護研修の実施、また、日系介護企業を集めての上海シニア産業フェアの主催等、上海シニア事業全てを総指揮。

老後に関する心配事は、面倒を見てくれる家族がいけないことに加え、金銭的な不安も大きくなっています。